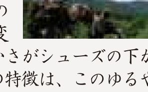
おくのほそ道散策マップ

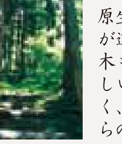
出羽街道中山越　芭蕉の道を訪ねて

俳聖・松尾芭蕉のたどった足跡は、「歴史の道」「奥の細道」として整備され、多くの人々に愛されています。鳴子・中山平温泉の森の中には、この古道『出羽街道中山越』が、今も当時のままの姿で残されています。
ここでは、中山平温泉の入り口である「尿前の関跡」から「封人の家」までの約10kmの区間を、中山平を中心に芭蕉のたどった古(いにしえ)の道を行く旅をご案内いたします。

出羽街道中山越を歩く　参
～山神社から軽井沢・封人の家へ（軽井沢コース）～

出羽街道中山越のルートの中で一番歩きやすく、周辺のロケーションが変化に富んでいるのが軽井沢コース。中山宿跡からすぐに山神社があり、そこから続くうっそうとした杉木立の道はまるで時代劇の街道筋のような趣がある。その木立を通りすぎて坂を上ると眺めは一転し西原ののどかな農道が続き、晴天なら陽の光を存分に受けながら約1.3キロ先の軽井沢越え入り口までトレッキングが楽しめる。軽井沢越えの森の中に分け入ると、また道の表情が変わり、なだらかな起伏と腐葉土の柔らかさがシューズの下から伝わり足取りも軽くなる。軽井沢コースの特徴は、このゆるやかな起伏が続く道を陽ざしが照らしている明るさだろうか。小深沢・大深沢のうっそうとした原生林を歩くのとは違い、明るい。スギゴケが道のいたるところに生えており、それらが木もれ日に照らされる光景はとてもすがすがしい。軽井沢コースにはベンチや東屋が多く、木々を渡る風を感じ、鳥の声を聞きながらのひとやすみも格別。





尿前の関～大深沢越　拡大MAP

おくのほそ道…

「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也…」

俳聖・松尾芭蕉『おくのほそ道』

この冒頭文で知られる松尾芭蕉の『おくのほそ道』。今から三二〇年ほど前、江戸深川を旅立った俳聖・松尾芭蕉とその門人・河合曽良の旅は、五百年忌を迎えていた西行をはじめ、古の歌人の足跡を訪ねる旅であり、また、三十一歳にして没した悲運の将・源義経を追慕する旅だったといいます。

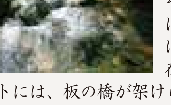
中山平温泉に残されている古道は、道標や地図には「出羽仙台街道中山越」とも表記されていますが、正式名称は『出羽街道中山越』といいます。「出羽仙台街道」は、奥州街道吉岡宿から分かれて、中新田、岩出山、鳴子を経て出羽に至る峠越の道。元禄二年(一六八九)奥州行脚に旅立った芭蕉は、平泉から引き返し、仙台藩から出羽に出ようとしてこの道を通ったと「おくのほそ道」に記しています。この街道は、義経の時代から軍事上の要衝として知られ、渓谷に橋を架けることもなく旅人たちがたどったルートであり、「中山越」は最大の難所でした。

松尾芭蕉が「奥の細道」に旅立ったのは一六八九年、芭蕉四十六歳、曾良四十歳の時でした。深川からの旅を続け二人が仙台藩に入ったのは今の暦でいうと五月のこと。さらに、仙台～宮城野～塩釜～松島～石巻を経て一路平泉へと足を運び、再び南下して、岩出山に入ったのが六月の末でした。岩出山を七月一日に出立した芭蕉と曽良は、たどりついた「尿前の関」できびしい取締りにあい、ようやく通行を許可された芭蕉は、鳴子の湯に浸かる余裕もなく、そそくさと難所の「中山越」に足を進め、その日のうちに出羽の堺田に着いています。

◇参考文献　鳴子町史 上・下巻

出羽街道中山越を歩く　弐
～小深沢から大深沢・中山宿跡へ～

芭蕉と曽良が中山平を越える少し前に仙台藩が尿前の関を整備したという。それというのも日本海側と太平洋側を隔てる奥羽山脈越えの中でも「出羽街道中山越」は標高が低く、比較的越えやすいところだったため。古くは大崎氏の時代から、当時の仙台藩にとっても軍事的な要衝として守りの要だった。そのため藩政時代は沢を越える道にも橋を架けることなく、旅人には難所として知られていた。現在、小深沢・大深沢の沢越えのポイントには、板の橋が架けられているが、芭蕉と曽良が歩いた当時はこれもなく、けもの道のようなわずかな踏み跡を頼りに歩いたという。義経一行もたどったという山道らしいが、曽良と二人だけではさぞかし心細い道行だったことだろう。今この道を歩いても、その心細さを感じることはできないが、往時のことを思うと確かに難所だったろうと思われる。うっそうと茂るブナ、クリ、ナラやカエデといった木々の枝葉が陽の光を遮る道を抜けると、芭蕉が訪れた当時と変わらないと思われる美しい風景が現れる。ここが難所「大深沢越え」とはちょっと信じられないスポットとなっている。沢の周辺に差し込む光の中で苔むした石が、『古道』の趣を強く語りかけてくる。

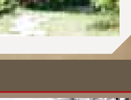


おくのほそ道　尿前の関～大深沢越

出羽街道中山越を歩く　壱
～尿前の関から小深沢へ～

芭蕉と曽良が鳴子を訪れたのは1689年7月1日(元禄2年、旧暦5月15日)。「おくのほそ道」の旅に出てから47日目のことだった。しかし尿前の関にたどりついたものの通行手形（今でいうパスポート)を持っていなかったため、関守に怪しまれてなかなか通過を許されなかったという。前夜は、奥州では知人もいない心細さから、まさに「道の奥」であり「細道」であることを強く実感していた記述が見られる。紀行文「おくのほそ道」の冒頭の一文に詠われているのは、『すべては旅に似ている』という芭蕉が抱く人生観である。芭蕉が通過するのに苦労したこの関所跡が、出羽街道中山越、小深沢に至る道のスタート。芭蕉が訪れた6～7月には、関跡の広場に建てられた芭蕉像の傍らにツツジが咲き誇る。

◇参考文献　鳴子町史 上・下巻



凡例

トイレ	石柱「出羽街道中山越」
駐車場	木製道標
休憩所	道標「出羽仙台街道中山越」

道標

- 19 奥の細道 中山宿
- 20 ←出羽仙台街道中山越（山形県境へ3.9km）
- 21 ←軽井沢0.2km →中山宿跡1.3km
- 22 ←甘酒地蔵0.7km →軽井沢 中山宿跡1.9km ↓国道47号線0.9km
- 23 →尿前の関10km ←封人の家500m（山刀伐峠13km） ↓古川IC41km（古川駅44km）

中山平エリア

食・買
1 関の茶屋
3 さつき亭
6 食事処 笑楽
11 上野食堂・やまおやじ
12 そば処 七福神
14 板そば 藤治朗
15 いろり亭 田舎や
20 駅前商店街
24 みちのく精水工場
30 ゆさしそ巻き工房
36 封人の茶屋 時空
37 芭蕉茶屋

観
2 鳴子峡
4 皇太明神神社
5 日本こけし館
8 鳴子峡レストハウス
9 イロハモミジ
13 ORAGA鳴子の熱帯植物園
18 古峯神社
31 南原穴堰
32 南原ホタルの里
34 神の木
35 岩堂沢ダム（螢泉湖）
38 堺田分水嶺

楽
7 大深沢遊歩道
10 中山平遊歩道
21 たかはし農園
23 ゆさ果実工房
25 関農園
26 あべファーム
27 ブルーベリーヒル
28 うえのブルーベリー園

技
17 宿星窯
19 古遊工房・遊佐建築
22 鳴鼓堂
29 上野こけし店
33 佐藤漆工房・ギャラリー漆木舎

癒
16 大久保整体療術院

中山平温泉
1 ホテルリゾート青葉
2 花渕荘
3 ふきゆ荘
4 鳴子やすらぎ荘
5 しんとろの湯
6 なかやま山荘
7 丸進別館
8 琢琇
9 東蛇の湯
10 鳴子らどん温泉
11 仙庄館
12 星の湯旅館
13 あすか旅館
14 菊地旅館
15 つるの湯
16 三之亟湯

出羽街道中山越 史跡

1 尿前の関跡
2 尿前の関
3 芭蕉の句碑
4 薬師神社
5 尿前坂
6 薬師坂
7 岩手の森
8 鳴子村鎮守薬師堂跡
9 斎藤茂吉歌碑
10 内山伊右衛門の墓
11 小深沢
12 前田夕暮歌碑
13 大深沢
14 青面金剛童子碑
15 庚申碑・水子地蔵尊
16 中山宿跡
17 遊佐大神碑
18 山神社
19 青面金剛童子碑・子育て地蔵尊
20 軽井沢
21 庚申碑
22 甘酒地蔵尊
23 三界萬霊碑
24 封人の家

中山平温泉 遊歩道の魅力を探る

中山平温泉には、芭蕉の歩いた「おくのほそ道～出羽街道中山越」の他にも散策に適した遊歩道がたくさんあります。

鳴子峡

「鳴子峡遊歩道」は「花渕山側入口」と「こけし館側入口」が工事のため閉鎖。そのため「鳴子側入口」から入り「大谷観音」手前までの折り返し通行になっている。片道約1.3kmで往復約50分。また国道47号沿いの「中山平側入口」から、新設された「回顧橋(みかえりばし)」は片道約350m、往復約30分で、入口から回顧橋までの折り返しの通行。峡谷の下からの眺めと合わせて眺めたいのが「新展望台」。大深沢遊歩道入口駐車場のそばに花渕山と大谷川を一望する展望デッキが新設された。

大深沢遊歩道

平成20年10月に新設された遊歩道で、歴史の道をたどりつつも、より広くて安全なルートをとの要望から誕生した。幅員が約4m、勾配の緩やかな約1.5kmのルートで、40～50分で歩ける。出羽街道中山越と合流し、大深沢に下る石段、沢越えを体験できるため森林浴にはもってこいのルート。遊歩道の傍らにはモミジやカエデ、クリやトチなどの落葉広葉樹の木立が続き、秋には色とりどりの色彩がトンネルとなって迎えてくれる。もちろん新緑の時期もおススメのコースとなっている。

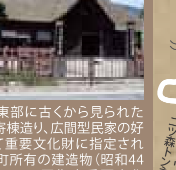
中山平遊歩道

平成22年秋に開通した「中山平遊歩道」。大深沢遊歩道の出入り口、鳴子峡レストハウスの第3駐車場を迂回して遊歩道に入り、中山平温泉街へとつながる約450mのルート。この遊歩道の素晴らしいところは、大谷川と陸羽東線の音を崖下に聞きながらたどりつく「見晴らし台」の眺望の素晴らしさと、これまで眺めることのできなかった中山平温泉を眼下に一望できるところ。足元のトンネルを抜けて走る列車が見えるというロケーションも魅力。

軽井沢コース

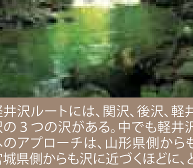
軽井沢コースは、出羽街道中山越のルートの中でも、まるで里山のハイキングコースのような、のどかな風景の中を歩くルート。中山宿跡から山神社を通り抜け、大柴山のふもとに広がる西原の田園風景を眺めながら農道を進むとやがて軽井沢コースの入り口にさしかかる。この先はモミジ、イタヤカエデ、ホウノキなどの広葉樹の森の中をのんびりと進み、清らかな沢越えも味わえる「おくのほそ道」が堺田の出口まで続く。

MAP 24 封人(ほうじん)の家（旧有路家）



山形県東部に古くから見られた茅葺き寄棟造り、広間型民家の好例として重要文化財に指定された最上町所有の建造物(昭和44年12月18日、国指定重要文化財)。「封人」とは国境の守役のこと。芭蕉と曽良は中山越の後、ここで雨のため三日間足止めされた。

MAP 20 軽井沢(かるいざわ)

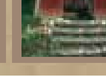


軽井沢ルートには、関沢、後沢、軽井沢の3つの沢がある。中でも軽井沢へのアプローチは、山形県側からも宮城県側からも沢に近づくほどに、とても景色が良く、心に響く。清らかで冷たい軽井沢に架かる橋を静かに渡ると、運がよければそこに「岩魚」の姿を見ることができる。

MAP 18 山神社(さんじんじゃ)

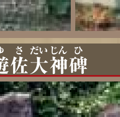
義経伝説によって建立された「山神社」は、中山平では最も大きな社殿を持ち、昔は角力(すもう)や神楽などが三夜二日行われたこともあったという。現在、10月の例祭で、奉納神楽などが行われている。周辺には道祖神、庚申碑なども。

MAP 22 甘酒地蔵尊(あまざけじぞうそん)



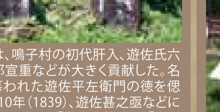
義経一行にまつわる「甘酒地蔵」の伝説で、一行を猿がお堂を建てて甘酒で接待し、そのお礼に弁慶が猿の安全を祈願し地蔵尊を祀ったといわれている。

MAP 14 15 19 21 青面金剛童子碑・庚申碑(しょうめんこんごうどうじひ・こうしんひ)



昔「庚申の日」には人体に棲む「三尸(さんし)の虫」という虫が、寝ている間に体外に出て天の神にその人の罪を告げ、生命を奪う・・・という言い伝えが。それを防ぐため、庚申の日には村人が身を清め、一軒の家に集まり夜を過ごしたという。青面金剛は、庚申会の守り本尊。

MAP 17 遊佐大神碑(ゆさだいじんひ)

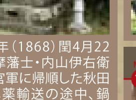


中山宿は、鳴子村の初代肝入、遊佐氏六代平八郎宣重などが大きく貢献した。名関守と慕われた遊佐平左衛門の徳を偲び、天保10年(1839)、遊佐甚之亟などによって建てられた、「遊佐大神碑」と「岩淵大明神碑」が並んで建つ。

MAP 16 中山宿跡(なかやましゅくあと)

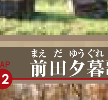
鳴子村の肝入、遊佐平八郎・平左衛門父子の努力によって寛永2年(1625年)に設けられ、検断が置かれた。玉造五宿駅(岩出山、下宮、鍛冶谷澤、尿前、中山宿)のひとつで、国境警備と運輸の要衝だった。幕末期は戸数10戸、住人46人と記録されている。

MAP 10 内山伊右衛門(うちやまいえもん)の墓



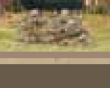
慶応4年(1868)閏4月22日。薩摩藩士・内山伊右衛門が、官軍に帰順した秋田藩へ弾薬輸送の途中、鍋越沢で仙台藩の荒井平之進ら5名に暗殺された。墓は明治3年(1870)鹿児島から内山の子孫が訪れて建立した。

MAP 9 斎藤茂吉歌碑(さいとうもきち)



山形県出身の歌人で精神科医だった斎藤茂吉(1882～1953)の歌碑。「アララギ」の中心的歌人だった茂吉が、鳴子の芭蕉の道を訪れて詠んだ句。(昭和59年11月建立)
『元禄の芭蕉おきなもここ越えて旅のおもひをとことはにせり』

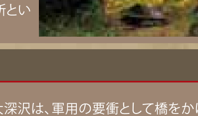
MAP 12 前田夕暮歌碑(まえだゆうぐれ)



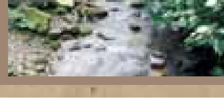
「憩の森(ふるさとの森)」の傍らには、神奈川県出身の歌人・前田夕暮(1883～1951)の歌碑が建つ。(平成4年10月建立)
『あさかぜにふきあふらるるあおかしのさやくを聞けばすでに春なり』

MAP 11 小深沢(こふかさわ)

国道と合流した先の小深沢橋に「小深沢入口」の道標があり、左手の沢に下る。200mほどで小深沢を越える。この沢からの昇り階段が古道の風情を高めてくれるロケーションとなっている。その先のつづら折れを上りきると左手に「ふるさとの森」を見ながら平坦な道が続く。大深沢に次ぐ難所といわれた小深沢越え。



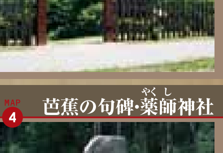
MAP 13 大深沢(おおふかざわ)



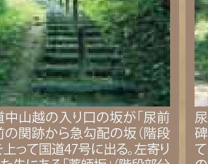
大深沢は、軍用の要衝として橋をかけなかったため、深い谷底へ下りて越さねばならないつづらおりの道が続く最も険しい沢だった。小深沢から続く平坦な森には道と交差するように土塁や空堀の跡が今も残っている。現在は橋がかかり、沢への急こう配も石組みの階段が設けられて、せせらぎの音とともに美しい光景にうっとりする。

MAP 1 2 「尿前(しとまえ)の関跡」と「尿前の関」

義経伝説に、亀割峠で生まれた亀若丸が、この地にきて初めて啼き、尿をしたのがこの関の場所で、以後「尿前」と呼ばれるようになったとある。大永年間(1521～27)には小屋館「岩手の関」が構えられ、仙台藩になって「尿前境目」、寛文10年(1670)に「尿前番所」となった。芭蕉と曽良は元禄2年(1689)この関所であやしまれ、事情を説明してもなかなか信じてもらえなかった・・・という記述が残っている。

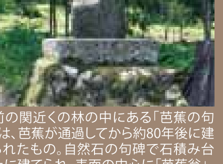


MAP 5 6 尿前坂・薬師坂(しとまえざか・やくしざか)



出羽街道中山越の入り口の坂が「尿前坂」。尿前の関跡から急勾配の坂(階段167段)を上って国道47号に出る。左寄りに横断した先にある「薬師坂」(階段部分176段)を上ると岩手の森に出る。この森は、尿前の関所が坂下に移るまで番所が置かれていた所で、薬師堂跡には宝珠のみが置かれている。この薬師堂が坂の名前の由来となっている。一帯は「鳴子公園」で、出羽街道中山越ルートの左手には「日本こけし館」がある。

MAP 3 4 芭蕉の句碑・薬師神社(やくし)



尿前の関近くの林の中にある「芭蕉の句碑」は、芭蕉が通過してから約80年後に建てられたもの。自然石の句碑で石積み台の上に建てられ、表面の中心に「芭蕉翁」、右に「明和五年六月十二日建 俵坊鯨文 主立周谷」、裏面には『蚤虱馬の尿する枕もと』の句が刻まれている。俳句を愛するこの土地の人々が芭蕉の通過したことを記念し、建立したものだと伝えられている。句碑の奥、栗や欅の中に建っているのが「薬師神社」である。